

# 沖縄国際大学

Okinawa International University



全九州卓球選手権大会において初優勝した女子卓球部の皆さん(関連記事P10)

学報第91号(2008.12.17発行)

## CONTENTS

沖縄国際大学への米軍ヘリコプター墜落後、4年を迎えて(声明)	P2	企業インターンシップを実施	P6
13号館新築工事安全祈願祭が行われる	P3	就職内定者報告	P7
文園善郎留学支援奨学金贈呈式	P3	エクステンションセンターで資格取得に挑戦	P7
本学名誉教授故山城将美先生大学院奨学金贈呈	P3	平成20年度 対策講座及び検定試験等実施状況	P7
名誉教授授与	P3	資格講座受講者報告	P7
韓南大学(韓国)金総長、学長を表敬訪問	P3	国際交流センター	P8
2007年度 国外研究員報告	P4	外国語センター	P8
教育実習報告	P4	図書館情報	P8
F M21ラジオ番組「沖国 together」放送始めました	P4	産業総合研究所	P9
平成20年度 学内定例講座実施報告	P4	沖縄法政研究所	P9
2007年度 国内研究員報告	P5	安里硬式野球部監督より花の苗・プランター寄贈	P9
平成20年度 後援会4支部総会の開催	P5	全九州卓球選手権大会女子1部リーグ初優勝	P10
平成20年度 事務職員夏期総合研修会開催	P5	大学弁当りリーグタコランツァ発売しました	P10
災害等義援金を日本赤十字沖縄県支部に寄付	P5	平成20年度 特待奨学生30名に証書交付	P10
就職課からの情報	P6	学生インタビュー	P11
就職ガイダンスはじまる	P6	リクルート雑誌に琉球風車が取材を受けました	P11
就職関係行事	P6	平成20年度 研究費交付決定額一覧	P12
就職相談	P6	平成19年度 事業報告(抜粋)の開示	P13
OB・OG就職研究会	P6	平成19年度 決算報告書	P14~15
学内合同企業セミナー2009in沖縄国際大学	P6	学内人事	P14~15

# 沖縄国際大学への米軍ヘリコプター墜落後、4年を迎えて(声明)

沖縄国際大学 理事長・学長 富川 盛武

沖縄国際大学に米軍ヘリコプターが墜落して、早4年になった。事件直後から、理不尽で悲惨な事件に対し米軍をはじめ関係機関に強く抗議し、飛行中止を求めてきた。しかし、未だ本学の上空を飛行し、問題解決がなされていない現状を憂い、ここに改めて、普天間基地を使用する航空機の即時飛行中止とともに、普天間基地の一日も早い閉鎖・返還を関係機関に要求する。

2004年8月13日午後2時20分頃、本学本館(1号館)ビルに米海兵隊所属のCH-53D型ヘリコプターが墜落・炎上した。この事件により、本学の中枢である本館が使用不能となり、大学の機能が麻痺する事態に陥った。この理不尽、不条理極まりない事件は大学のみならず、すべての県民、すべての国民を恐怖に陥れ、メディア報道により世界を震撼させた。

事件後、米軍関係者が陳謝し、政府・政党関係者、その他多くの人々が本学を訪れ、その際、「二度とこのような悲惨なことが起こらないように努力、協力する」とのことであった。しかし、多くの人々の抗議・要求をよそに、未だ本学上空を飛行している。遺憾至極である。大学は、もとより、静かな環境の中で勉学・研究をする場である。例えば、いかな



る国際政治論、安全保障論で飛行を正当化しても、大学の静寂・安寧を脅かし、生命すらも脅かす飛行は大学にとって認められない。

「安全、安心、平和」は思想、信条を超えて万人の求めるところである。本学は、地域に根ざし、世界に開かれた大学として、地域と経験を共有しつつ連携して、「安全、安心、平和」のために、普天間基地を使用する航空機の即時飛行中止を今後も求めていきたい。

2008年8月13日



本館屋上の「NO FLY ZONE」文字のペイント



## 13号館新築工事安全祈願祭が行われる

5月19日、旧2号館跡地に建設される13号館新築工事安全祈願祭が本学や工事関係者が参加して行われました。

13号館は「21世紀の大学教育にふさわしい」をコンセプトとして、「教育機能を充実する」、「情報化に的確に対応する」、「福祉社会に適切に対応する」、「国際化に対応する」、「自然環境の活用と対策を考える」、「地域・学内キャンパスと調和・調整する」という6つを基本政策に地上6階建てのRC構造になっている。

5月8日に制限付一般競争入札が行われ、建築総工費約10億円(予定)(内約1億4千万円は防音工事費)で工事は5月に着工し、竣工は平成21年3月の予定。

13号館は大学院、研究所を中心に平成21年5月スタートする裁判員制度に対応した模擬法廷教室も完備するなど新たな大学の頭脳的施設としての機能を備えている。



## 文園善郎留学支援奨学資金贈呈式 (寄付金400万円)

6月11日、文園善郎留学支援奨学資金目録贈呈式が本館6階会議室で執り行われました。

文園氏は、本学の特に、授業料・施設設備資金相当額を支援する留学制度「国外協定校派遣留学奨学金」に注目され、沖縄国際大学の学部にて在学する学業、人物ともに優秀で、フランス留学又は短期語学留学(仏語・英語)を志す者で経済的な理由により留学が困難な沖縄県に本籍を有する学生に対し、その留学に必要な奨学金を給付することによって、語学修得並びに国際理解の機会を与え、国際社会に有為な人材の育成を図ることを目的に、400万円のご寄付をいただきました。

寄付金は、今回だけにとどまらず、今後の留学生支援のために継続的に行っていただけることになっております。



【文園善郎(ふみぞのよしろう)氏 略歴】

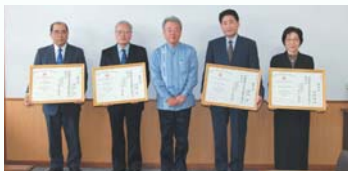
1941年 東京に生まれる  
1964年3月 上智大学外国語学部フランス語学科卒業  
同年4月 日本精工株式会社(NSK)入社  
1998年9月 NSK CANADA(在カナダ)会長、CEOに就任  
2005年5月 退職  
2007年9月 沖縄県浦添市に単身移住、現在に至る

## 名誉教授授与

4月30日、5月7日本館5階応接室において名誉教授の称号記授与式が行なわれた。

今回授与対象となられたのは、法学部故山城将美教授、経済学部鎌田隆教授、産業情報学部金城宏教授、総合文化学部西平功教授、経済学部渡久地朝明教授の5名。

今回の授与を含め、本学において同称号記を贈られた名誉教授は36名となる。



## 本学名誉教授 故山城将美先生 大学院奨学資金贈呈

5月1日学長室にて故山城将美先生のご遺族より寄付金(100万円)の贈呈があった。富川学長は「山城先生は本学の発展に多大な功績を残された。寄付金は学生の為に大切に活用したい」とお礼を述べた。



寄付金は山城将美大学院奨学金として運用する。

また、7月7日学長室にて本学名誉教授故山城将美先生が受章された「瑞宝中綬章」の授与式が行われた。

平成20年3月1日脳出血で亡くなった本学名誉教授の故山城将美先生は商法・会社法の分野において優れた研究業績をあげた。

また、法学部長、沖縄法政研究所所長、大学院法学研究科科長を歴任し本学の発展に多大なる貢献をされた。

山城 将美(やましろ まさみ)

【略歴】昭和14年11月11日沖縄県生まれ。

昭和58年4月沖縄国際大学法学部教授に昇任。

平成2年4月、平成15年4月に法学部長、平成11年4月沖縄法政研究所所長、平成17年4月大学院法学研究科科長を経て、平成20年3月死亡退職。

平成20年4月に沖縄国際大学名誉教授の称号を受ける。

## 韓南大学(韓国)金総長、学長を表敬訪問

7月15日、本学と学術交流協定を締結している韓南大学(韓国)の金炯泰総長、朴文式学術情報部長、禹燦三国際交流院長、印美東国際交流院職員4氏が学長を表敬訪問した。



今回の表敬は、総長就任挨拶及び今後の国際交流についての意見交換のため。金総長は「沖縄国際大学と韓南大学の交流は17年になりその間多くの学生、教職員が交流を深めてきた。今後とも交流を深めていきたい。」と述べられた。

富川学長は「現在、本学には2名の韓国出身の専任教員がおりつながりを感じます。本学としても今後とも交流を深めていきたい」と感謝を述べた。

## ハワイで見たデ・マーケティング

産業情報学部 教授・宮森正樹



2007年度の国外研究はハワイ大学の敷地内にある東西センターであった。東西センターは、アジア、環太平洋諸国と米国の間で関係と理解を強化するために1960年に米国国会によって設立された教育と研究組織である。その三階に私の研究室があり、窓からは小高い丘が見え、明るい日差しが差し込んできた。

ハワイではほぼ毎日東西センターの研究室に通う生活が続いた。研究の合間には地元の友達とゴルフをしたり、一日の終わりには中学校時代の同級生が経営している「サンライズ」という琉球料理店で、ゴーヤチャンプルーを食べながらビールを飲んだ。

今回の国外研究では、南太平洋の観光と特産についての調査を行った。また、ハワイの観光をマーケティングの観点からいろいろと見ていった。ハワイは観光の持続

的發展を目指してデ・マーケティング(需要を抑える手法)を実践している。例えばハナウマ湾には過去年間300万人の観光客が来ていたものを、現在では150万人まで減らして、自然を保護していく政策をとっている。単に観光客を増やして収入をあげるのではなく、ハワイの観光資源を長期的に育てながら、数ではなく質で観光を推進していくというポリシーに感心させられた。

東西センターでは、二度のプレゼンテーションを行った。プレゼンそのものは十分に準備をすればなんということはないのだが、その後の質問ではなかなか英語の意味が取れずに世話役のロバート仲宗根氏に分かりやすい英語で通訳をしてもらったりしながらどうにかこなすことができた。

ハワイでの研究は1年間では完成することはできなかった。しかし、研究を進める上での人的つながりもできたので、これからも継続して研究できる環境は整えてきた。ハワイも含めた南太平洋島嶼国の観光政策の調査の深化、ハワイの沖縄系新一世のビジネス手法の研究、そして日本の団塊世代に向けたハワイ州観光局のプロモーション戦略の研究など、調査・研究課題は多い。ハワイでの研究はもうしばらく続きそうである。

## 教育実習報告

沖縄県教員の資質向上連絡協議会の申し合わせにより、原則6月実習(主に高校実習)は、6月第1月曜日から2週間、9月実習(主に中学実習)は3学期制の場合、①9月8日(月)～9月30日(火)、2学期制の場合、②夏期休業明けの第1月曜日から15日間という日程で行われました。詳しい内訳は下記のとおりです。

また、本学では「特色GP」で採択されたように実習前・中・後に教育実習に関するきめ細かい指導を行っております。

### 実習期間

- 〈6月実習〉6月9日(月)～6月20日(金)(2週間)
- 〈9月実習〉①9月8日(月)～9月30日(火)(15日間)
- ②夏期休業明けの第1月曜日から開始(15日間)

### 実習生数

- |                    |             |
|--------------------|-------------|
| ①実習期間              | ③教科         |
| 5月実習生…………… 3名      | 国語…………… 48名 |
| 6月実習生……………88名      | 英語…………… 42名 |
| 8月実習生…………… 3名      | 社会…………… 37名 |
| 9月実習生……………89名      | 福祉…………… 1名  |
| 10月実習生…………… 2名     | 情報…………… 3名  |
| [合計185名]           | 地歴…………… 21名 |
| ②実習校               | 公民…………… 25名 |
| 中学校実習生 ……114名(73校) | 商業…………… 8名  |
| 高等学校実習生… 71名(32校)  |             |
| [合計185名(105校)]     |             |

### 事前指導

- 5月4日(日)第1回教育実習オリエンテーション
- 5月9日(金)第2回教育実習オリエンテーション
- 7月4日(金)第3回教育実習オリエンテーション

### 事中指導

- 2週間実習:第1週目の土曜日に教科教育法教員を交えて実習生による中間懇談会を行う。
- 3週間実習:第2週目の土曜日に教科教育法教員を交えて実習生による中間懇談会を行う。

### 事後指導

- 教科別反省会:教育実習終了後、教科教育法毎に教育実習の感想・反省点を報告する。



FM21ラジオ番組  
「沖国 together」  
放送始めました

10月より本学の教育理念・方針のアピールを目的として、浦添市・宜野湾市・西原町を中心とするコミュニティー放送FM21(周波数:76.8MHz)ラジオ番組「沖国 together」を始めました。放送時間は毎週水曜・午後7時から午後8時。放送期間は平成21年3月までの予定です。

メインパーソナリティーは本学非常勤教員でもある経営支援研究所所長の親泊元彦さん。本学教職員が「建学の精神」に掲げる教育理念・方針に基いた取り組みや学生に対する熱い思いを語っていただきます。学生には、本学の良さや将来に向けての夢などを語っていただきます。

また、入試の募集案内、大学広報活動としても幅広くお伝えしますので沖縄国際大学の魅力を知っていただきたいと思います。

詳しくは、本学ホームページ<http://www.oki.ac.jp/gaiyou/radio/index.html>をご覧ください。

## 平成20年度学内定例講座実施報告



毎年、公開講座委員会主催で行っている学内定例講座。今年度は「なかゆい講座『元気が出るワークショップ』」と題し、6月から11月まで全10回の講座を開催いたしました。

「健康」とは、単に病気でないとか、悩みごとがない状態を指すのではなく、単純に「病」を治そうという考えでは、地域に根ざす大学として現代人の求めに応えることはできません。そこで今回は、ワクワクする体験を通して知的好奇心がふくらむプログラム、心と身体のリフレッシュを楽しむプログラムなどをご用意し、こころの元気、からだの元気、地域社会の元気について参加者と共に実践的・体験的に考え、提案いたしました。

受講者数は約370名。中には定員を超える申し込み問い合わせがあり、関心の高さが伺えました。今回の講座の内容は、書籍化され2009年3月に全国の書店で販売予定です。



## 27年ぶりの国立での生活

経済学部 教授・湧上敦夫



昨年度は母校の一橋大学で国内研修をさせて頂いた。大学は東京都国立市にあるが、国立市は中央線沿線で新宿から約30分、国分寺市と立川市の間にあって、小ぢんまりと落ち着いた住宅街である。南の方は多摩川の川原に接し、私が学生のころは田んぼや梨畑が広がっていた。まだ処々に林が残っており、昔の武蔵野の面影を残していると言われていた。多摩川の対岸が日野市で、土方歳三が子供の頃よくチャンバラをしたそうである。

山口百恵夫妻が引っ越してきて高級住宅地になったかのように言われたが、国立駅の周辺と大学通りの一部にビルやマンションが建っただけで、そう変り映えないのだが、家賃はすごく高くなった。町の景色は変わらなくとも、人の出入りはある。知り合いはとても少なくなった。その中で、恩師や、何人かの友人に会え

たのはとても嬉しかった。

久しぶりに会った人々は「30年ぶりの国立はどうだ」と問う。私は少し考えて、ハッと気づく。「町から笑顔や歌が消えましたね」。それはなぜなのだろうと考えると、やはり、人々が老いたのだと思う。私は大きな団地の近くにアパートを借りたのだが、目や足が不自由な高齢の団地の住人達がスーパーの店員に助けられてやっと買い物をしている。若い人もパートなどが多く、歌うゆとりはない。

私の研究テーマは、「バブル以後の経済社会の変質と政策」と言うものであるが、東京に住んでみると社会を覆う重苦しさは想像以上であった。1年間、本や資料を読み、色々な人の話を聞いて、自由に思索した。納得したことは、この国は未だに占領中であって、この2,30年の間に解体は急速に進行したということであった。桜が満開の頃に国立に来て、谷保天神の梅を惜しみ、再び綻び始めた桜の蕾に別れを告げるようになった。人や国は遷り変わっても、自然はいつまでも春を忘れない。何故だかホッとした。

## 平成20年度後援会4支部総会の開催

平成20年度沖縄国際大学後援会支部総会が各地で開催された。池田光男後援会長は、35周年記念事業を会員の皆様のご協力のおかげで成功裏に終えたこと、東村セミナーハウスの建設資金を繰上げ償還したこと、後援会奨学金を平成20年度は30名から40名に増員したこと、そして今年度は、今後の諸事業に対応するため2,500万円の基金造成を行ったことを挨拶の中で述べられた。

富川盛武学長は、就任のご挨拶に引きつづき、日本の大学は少子化で大変な状況におかれていること、大学教育の一番大事なことは学生の能力を伸ばし、資質の向上をはかることが大事であると述べられた。さらに、持って産まれた能力を伸ばし、社会で活躍できるような人間力を育てていくのが肝心だと結ばれた。

今年度の各支部総会の特色は、喜久村進キャリア・カウンセラーが就職講演を行ったことである。喜久村氏は、フリーターやニートの増加に触れ、我が子にその道を歩ませない為に、親が就職の現場を良く理解し、子供の良きアドバイザーになっていただきたいと講話した。

各支部の役員改選の結果、平成20年度の支部長に、八重山支部は安村悟朗氏、宮古支部は國仲昌二氏、久米島支部は上江洲勝志氏、北部支部は親川博之氏が選出された。



- ①八重山支部(支部長 豊川善克):10月4日(土)  
出席者:30名(会員82名中)於:チサンリゾート石垣
- ②宮古支部(支部長 國中昌二):10月5日(日)  
出席者:60名(会員134名中)於:ホテル共和
- ③久米島支部(支部長 上江洲勝志):10月18日(土)  
出席者:25名(会員32名中)於:リゾートホテル久米アイランド
- ④北部支部(支部長 親川博之):10月25日(土)  
出席者:50名(会員347名中)於:名護出雲殿

## 平成20年度事務職員夏期総合研修会開催



事務職員の資質向上を目的として、南城市において「平成20年度事務職員夏期総合研修会」が9月4日から5日までの2日間開催された。研修会では、富川理事長・学長による「私立大学を取り巻く環境変化と本学の方向」と題し、少子化社会における大学の対応、本学の方向性について講演いただいた。



また、「大学におけるエコアクション21の取り組みについて」と題し、NPO法人沖縄県環境管理技術センター理事長名嘉光氏にエコアクション21の目的について講演いただいた。

職員は真剣な表情で熱心に耳を傾けていた。

## 「ミャンマー・サイクロン災害」と「中国四川省大地震」義援金を日本赤十字社沖縄県支部に寄付いたしました

沖縄国際大学では、教職員に呼びかけ、ミャンマー・サイクロン災害と中国四川省大地震への義援金の募集を行いました。

集まった募金を携え、富川盛武学長と普久原朝保庶務課長が、6月10日に日本赤十字社沖縄県支部を訪問し、比嘉善昭事務局長と大浜豊政参事に、下記の義援金を手渡しました。

比嘉事務局長から、「教職員の皆さまからいただいた義援金は、ミャンマーと中国の赤十字社を通じて被災者への救援のために役立てます。」とお礼の言葉をいただきました。

ミャンマー・サイクロン災害被災者への義援金  
募金者人数(教職員):151人 金額:171,500円  
中国四川省大地震被災者への義援金  
募金者人数(教職員):127人 金額:153,500円



## 就職課からの情報

2010(平成22)年の就職に向けて、3年次の就職活動が10月からスタートしました。就職課による「就職ガイダンス」も10月10日から始まっています。就職先を決めることは、卒業後の人生を左右する大切な選択です。早めに取り組むことが、希望の進路に就く近道となります。

3年次の皆さんが長く厳しい就職活動を乗り切り、希望する企業の内定を手にするために、就職課では様々な形で就職活動をサポートします。上手に利用して就職活動を有利に進めてください。

### 就職ガイダンスはじまる

3年次を対象に10月10日からスタートしたガイダンスは、キャリアカウンセラーの喜久村進氏(リンク人財センター)を講師に招き、就職活動のノウハウを学ぶための連続講座(全7回)として下記のテーマにそって開講しました。

就活を成功させ、希望の仕事につくために、ガイダンスで学んだことを活かして下さい。

〈就職ガイダンステーマ〉

- 第1回「就活を成功させるには、早く始めること」
- 第2回「企業が求める人材とは、どんな学生か」
- 第3回「自己分析と企業研究は、就活の必修である」
- 第4回「履歴書・エントリーシート・小論文の書き方」
- 第5回「筆記試験を通過する」
- 第6回「面接で最終選考まで残る」
- 第7回「内定者から学ぶ就活ノウハウ」

### 就職相談

就職活動を進めるにあたり、悩んだり戸惑ったりすることが多々あります。そんな時、一人で悩まず就職課の窓口にご相談にきてください。相談方法は3つあります。就職課を大いに活用して就職活動を乗り切りましょう。

#### 1.キャリアカウンセラーによる就職相談

就職相談専門のキャリアカウンセラーによる「就職なんでも相談」を行っています。この相談では、就職に対する意識と行動力を身につけることを主な目的としています。就職や進路に関することなら、学年を問わずどなたでも利用できます。

将来の進路のことや具体的な就職活動の進め方、自己分析の仕方、履歴書やエントリーシートの書き方についての指導、模擬面接など、どんなことでも気軽に相談下さい。

なお、相談は予約制となっていますので、下記のとおり就職課窓口でお申し込み下さい。

- 相談日:毎週金曜日 13:00~17:00
- 場 所:本館3階会議室

#### 2.沖縄県キャリアセンターによる就職相談

毎週2回沖縄県キャリアセンターの相談員による大学巡回相談を行っています。学年を問わず就職に関する相談を受けていますので、相談を希望される方は下記のとおりご利用下さい。

- 相談日:火曜日・木曜日(毎週2回)11:00~16:30
- 場 所:本館3階会議室

※ 事前予約は必要ありません。直接会議室へ起こして下さい。

#### 3.就職課スタッフによる就職相談

就職課スタッフによる履歴書添削、模擬面接を行っています。どちらも予約が必要ですので、希望される方は下記のとおりご利用下さい。

〈模擬面接および履歴書添削〉

- 相談日:月曜日~金曜日の随時
- 場 所:就職課個別面談室
- 予約時に必要なもの:「履歴書添削」「模擬面接」を予約する場合は、受験する企業に提出する履歴書またはエントリーシートのコピー
- ※その他、就職に関する相談を学年を問わず随時受け付けています。



### 就職関係行事(2008年12月~2009年2月)

下記の日程で就職ガイダンスや就職行事の開催を予定しています。学内会社説明会等も行われる予定ですので、詳細及び申し込み手続を掲示板等で確認し、就職課窓口で申し込んでください。

- ◆SPI能力模擬検査 12月2日
- ◆就職内定者報告会 12月5日
- ◆SPI対策講座 12月8日~1月30日
- ◆マイナビ説明会12月12日
- ◆郵政グループ説明会12月19日
- ◆就職キックオフセミナー 12月20日
- ◆県外企業チャレンジセミナー 2月12日、13日

〈その他の就職試験対策講座〉

就職試験対策講座については、例年下記の内容で予定しています。詳細が決まり次第掲示板等でお知らせいたします。

- 教員採用試験対策講座 ●論文試験対策講座 ●面接試験対策講座
- 一般常識・時事問題対策講座 ●就職マナー講座

【2008年開催実績】

- ◆10月:エアライン・セミナー  
日経新聞読み方セミナー、学内合同企業説明会(4年次対象)  
Qナビ業界セミナー、社会人基礎力診断テスト
- ◆11月:タイムズ就職ナビ登録説明会  
リクナビ説明会、人事院主催「国家公務員 官庁業務合同説明会」  
社会人基礎力診断テスト解説会、就職講演会

### OB・OG就職研究会

就職課では、毎年「就職研究会」と題してOB・OGと学生との懇談会を開催しています。

今年も5月21日に開催し、就職活動の本番を控えた3年次約150名余が参加しました。参加した学生は、各先輩方が体験した就職活動の実体験や失敗談、就職試験の内容など、会社訪問や企業説明会ではなかなか聞くことの出来ない本音や、実際の仕事内容について熱心に聞き入っていました。

#### 2008年参加OB・OG企業一覧(12社)

(株)エア・沖縄、(株)琉球銀行、沖縄県労働金庫、沖縄ツーリスト(株)  
(株)沖縄銀行、大同火災海上保険(株)、ザ・テラスホテルズ(株)、(株)沖縄海邦銀行、(株)レキサス、(株)ダイコー沖縄、(株)サンエー、(株)スズキ自販沖縄

### 学内合同企業セミナー2009in沖縄国際大学

4月25日、5月9日、5月16日の3回にわたり、学内合同企業セミナーを本学厚生会館4階ホールにおいて開催しました。3日間で42の企業が参加し、655名の学生が来場しました。参加した学生は、企業の人事担当者の説明を熱心に聞き、活発に質問を行っていました。

### 企業インターンシップを実施

本学では、毎年夏期休業中(8~9月)の約2~3週間の日程でインターンシップを実施しています。今年も県内の主だった企業や公的機関、県庁及び各市町村役場など84企業(機関)で212名の学生が実習を行いました。

インターンシップでは、実際に企業で就業体験を行うことにより、職業意識を向上させる機会に繋がります。具体的業務を体験する中で、自分自身を見つめ直し、これからの社会生活でプラスになることを多く学ぶことができます。ぜひインターンシップ制度を利用して自分の可能性を見つけ、就職活動の参考として下さい。



## 就職内定報告

産業情報学部 企業システム学科 4年次 玉城 あかね 内定先:全日本空輸(株)

就職活動中、私が最も時間を割いたのは自己分析でした。活動を終えた今でも考え続けているくらい、自己分析は重要なことだと思っています。なぜなら選考に必要な履歴書、および面接での受け答えはすべて自己分析を土台としているからです。面接においては、予期せぬ質問がなされたり、準備してきた答えを集団面接で他の学生に言われてしまったりといったことがよく起こります。いかなる状況にも対応できるように、丸覚えするのではなく、自分自身を良く知っておくことが大切なのです。私自身、いくつかの面接に臨み、中には難しい質問もありました。どのような質問に対して、自分自身の言葉で素直に伝えることが一番良いと思いますし、企業側もそうした等身大の私を評価してくれたのだと思います。

また、面接に臨む前に「なぜその業界で、なぜその会社を選び、なぜその職種でなければいけないのか」というところまで志望動機を掘り下げ、明確にしておくことが必要です。このことで自分を出すことができれば、きっと充実感が得られることと思いますし、楽しんで面接に向かえるようになれば、おのずと良い結果がついてくると思います。

これから就職活動を始める皆さん、就職活動を色々な企業の色々な人と知り合うことが出来る貴重な時間と考え、どんな困難も乗り越えてください。皆さんにとって満足のいく就職活動を行なえるようお祈りします



## 就職内定報告

法学部 法律学科 4年次 平良 理恵子 内定先:おきなわ証券(株)

私が就職活動を始めたのは、3年次の10月からでした。就職ガイダンスやジコピー主催のセミナーに参加したり、ゼミの先輩からどんな情報を得ていきました。3年次は、自己分析と合同企業説明会、会社訪問をしました。金融業を志望していましたが、自分の視野を広げるために、金融業以外の業種も見て回りました。40社以上の企業を見てきましたが、その中で一番入りたい会社だったのが、おきなわ証券でした。第一志望であるおきなわ証券から内定を頂いた時は、手が震えるほど嬉しかったです。

4年次の6月までの就職活動はただ動いている、ただ数をこなしているだけでした。「この会社で働いて〇〇〇がやりたい」という明確さが欠けていました。私が行動を共にしていた友人にこのことを気付かされ、7月からの私の意識は180度変わりました。まず、就職活動において3つの約束事を決めました。①どの企業も本気で受ける②面接で精一杯の自分を出す③明るく元気よくすることです。次に企業研究をしっかりと行うことです。それまで会社の表面しか見ていなかったのが、面接の際に突っ込まれると答えられないことが何度もありました。キャリアセンターの方々と友人の助けで、企業研究の仕方やその会社に入社してやりたいことを明確にすることができました。

そして危機感を持つことです。私には全く危機感がありませんでした。まだ受け入れられる会社は沢山ある、という気持ちで就職活動をしていました。7月からは心を入れ替え、常に危機感を持って行動してきました。

私は就職活動をしてとてもよかったと思っています。それは、就職活動をしなれば出会わなかったであろう仲間たちに出会えたからです。就職活動に関する情報はもちろんのこと、お互いの悩みを相談したり、面接練習をおこなったり、お互いを刺激し合うことでモチベーションを高めることができました。そしてキャリアセンターの方々、就職課の職員の皆様には、大変お世話になりました。感謝で一杯です。

最後に皆さんにお伝えしたいことは、就職活動は自分がやった分だけ自分にそのまま返ってくるということです。自分が本気でこの会社に入りたいと強く想い、行動を起こせば入社したい会社から内定を得ることができると思います。

## エクステンションセンターで資格取得に挑戦

エクステンションセンターでは、各種資格・検定試験の受験対策として有料講座を開設しています。今年度は、38件の講座を企画し、10月現在26講座に504名が受講しました。各種検定試験に518名が受験し、208名が難関を突破し合格しております。11月以降の開講予定講座は2月・3月(春期休業)をメインに12の講座を予定しています。

各講座で学んだことは、社会に出ても必要とされるものばかりです。興味を持った講座・検定試験に挑戦してみませんか？

## 平成20年度対策講座及び検定試験等実施状況(4月～11月)

No.	講座名	試験日	講座申込者数	検定試験等受験者数	合格者数
1	日商簿記3級対策講座(6月検定向け)	6月8日	23	右端表参照	
2	国内旅行取扱業務取扱管理者講座	9月7日	22	22	3
3	ERPスペシャリスト養成講座	-	57	-	-
4	福祉住環境コーディネーター2級対策講座	-	6	*	*
5	医療事務 医療事務コンピュータ講座(7月検定向け)	7月14日	23	22	20
	医療事務コンピュータ講座	8月8日	21	21	18
6	行政書士対策講座	11月9日	19	19	*
7	宅建対策講座	10月19日	30	30	*
8	話しことば検定2・3級対策講座(6月検定)	6月29日	20	右端表参照	
9	日商簿記2級対策講座(H20.11月検定向け)	11月16日	3	右端表参照	
10	PC検定(文書作成)3級講座(8月検定)	8月23日	9	14	6
11	PC検定(テ-活用)3級講座(8月検定)	8月23日	14	3	2
12	初級シニア(10月試験向け)対策講座	10月19日	18	18	*
13	BATIC第15回試験直前対策講座	7月20日	13	*	*
14	ファイリングデザイナー-2級対策講座	8月9日	20	右端表参照	
15	エアライン夏期集中講座	-	4	-	-
16	速読講座	-	33	-	-
17	ホームヘルパー講座(8月)	-	10	-	-
18	3級FP(ファイナンシャル)技能士受験対策講座	9月14日	24	24	3
19	秘書技能検定2級対策講座	11月7日	19	19	*
No.	講座名	試験日	講座申込者数	検定試験等受験者数	合格者数
20	日商簿記3級対策講座(11月検定向け)	11月16日	24	右端表参照	
21	PC検定(文書作成)3級講座(11月検定)	11月22日	0	*	*
22	PC検定(テ-活用)3級講座(11月検定)	11月22日	0	*	*
23	色彩検定(11月検定向け)対策講座	11月9日	18	*	*
24	医療事務講座(12月検定向け)	12月16日	17	*	*
25	話しことば検定2・3級対策講座	12月7日	8	*	*
26	公務員試験(H21.6月向け)対策講座	-	49	-	-
	合計		504	192	52
11月以降開講予定講座紹介					
No.	講座名	試験日	講座申込者数	検定試験等受験者数	合格者数
27	日商簿記2級対策講座(H21.2月検定向け)	2月22日			
28	ERPスペシャリスト養成講座	-			
29	日商簿記3級対策講座(H21.2月検定向け)	2月22日			
30	PC検定(文書作成)3級講座(3月検定)	3月7日			
31	PC検定(データ活用)3級講座(3月検定)	3月7日			
32	医療事務コンピューター講座	2月13日			
33	ホームヘルパー講座(2月)	-			
34	サービスクア専門士(2月)	2月25日			
35	ホームヘルパー&サービスクア専門士(2月)	2月25日			
36	社会保険労務士対策講座	来年8月			
37	速読講座	-			
38	3級FP(ファイナンシャルプランナー)技能士受験対策講座	来年5月			
検定試験		試験日	申込者数	受験者数	合格者数
日商簿記検定2級 6月検定(対策講座無)		6月8日	28	28	8
日商簿記検定3級 6月検定		6月8日	115	97	15
ビジネス能力検定2級(対策講座無)		7月6日	4	4	2
ビジネス能力検定3級(対策講座無)		7月6日	25	24	24
販売士検定2級(対策講座無)		10月1日	3	2	2
販売士検定3級(対策講座無)		7月14日	117	107	63
ファイリングデザイナー検定 2級		8月9日	22	22	6
ファイリングデザイナー検定 3級		8月9日	3	3	3
話しことば検定2級 6月検定		6月29日	20	20	14
話しことば検定3級 6月検定		6月29日	19	19	19
合計			356	326	156

### ホームヘルパー2級講座を受講して

経済学部 経済学科 4年次 澤岬 安泰

私の母が、病気で入院している時に、一緒に付き添うことはできたが、起き上がらせたり、食事をさせたり、車椅子に移動させることができずでした。何にもできないことに自分はショックを受けて学校で介護関係の講座はないのかと思い探したら、ちょうどホームヘルパー2級の講座を受付していたので、受講することに決めました。

私は介護の知識が全くなく、何か大変そうだなとしか思わなかったが、色々コツをつかんでいけばとても簡単な事だと知りました。

先生の話し一つ一つがとても勉強になり、目上の人と話すことは、常に何かを学んでいるのだと、思いながら仕事をすると気持ちが楽になる等学びました。

私は大学卒業後も、この経験を活かし福祉関係の仕事をしたと思います。

### 医療事務・医療事務コンピューター講座を受講して

総合文化学部 日本文化学科 2年次 根間 早矢佳

私がこの講座を受講しようと思った動機は、大学生の内に何か資格を取得したいと思ったからです。この医療事務の資格取得を目標にして、この講座を受講しました。

私はガイダンスに出席することができずに受講したため、どんな講座なのかとても不安な気持ちで受講しましたが、先生のとてもわかりやすい説明のおかげで素人だった私でも、レポートを1人で書けるようになりました。そして検定試験も、バイト・学校の授業・テスト・遊びなどで忙しかった私でも一発で合格することができました。

これからの大学生活では色々な資格取得に挑戦したいです。もし私がこの医療事務を仕事にした時はこの講座で学んだことを活かしていきたいと思っています。

## 国際交流センター



「日本語・文化研修」は、姉妹校からの研修生たちが本学で日本語と日本の文化を学ぶ約3週間のプログラムとなっており、今年度の研修生は、台湾の東海大学から12名、韓国の韓南大学から12名、オーストラリアのマッコー

リー大学から6名、計30名の学生が本学を訪れ研修を受けました。

約3週間の研修プログラムの中で、本学教員による「日本語集中講座」を受講する一方、本学の東村セミナーハウスに行き、東村小中学生との交流や、エコツーリズムを体験するなど、学外の人々とも積極的に交流する機会が数多く設けられました。

また、文化研修プログラムとして「お茶会」や「書道」、「浴衣の着付け」などの日本文化を体験し、本学学生らが主宰するエイサー団体「琉球風車」の演舞披露時には、研修生も大太鼓を持ち、カチャーシーを踊るなど沖縄の伝統文化に触れ、積極的に異文化交流を楽しんでいました。

更に、「台湾・韓国・オーストラリア展」と題し、各国のユニークなお菓子や珍味、文化や遊具の紹介を行い、本学学生や教職員との交流を深めていました。

研修最終日の修了式では、研修生一人ひとりに修了証書が手渡され、さよならパーティーでは、日本人学生と今後の更なる交流を誓い合う姿がみられました。

## 2008年度主な行事

4月	外国人留学生懇親会 海外語学・文化セミナー(豪州)帰国報告会
5月	国外協定校短期派遣留学(韓国・台湾・澳門)説明会
6月	国外協定校短期派遣留学(韓国・台湾・澳門)選考試験
7月	日本語・文化研修生(韓国・台湾・豪州)受入
8月	海外語学・文化セミナー生(韓国・米国)派遣
9月	国外協定校特別聴講学生(仏・澳門)受入 国外協定校短期派遣留学(仏)出発
10月	海外語学・文化セミナー(韓国・米国)帰国報告会
11月	沖縄地域留学生交流推進協議会主催留学生懇親会
12月	留学生クリスマスパーティー 国外協定校短期派遣留学(仏)説明会
1月	国外協定校短期派遣留学(澳門)出発 お花見 国外協定校短期派遣留学(仏)選考試験
2月	国外協定校短期派遣留学(韓国・台湾)出発 海外語学・文化セミナー生(台湾・豪州)派遣
3月	国外協定校特別聴講学生(韓国・台湾)受入



## 外国語センター 英語合宿セミナー「100%純生英語」で英語力UP!



今年で8回目をむかえる夏休み恒例「英語合宿セミナー」(外国語センター主催)が9月20日から23日までの3泊4日、東村セミナーハウスで行われました。参加学生46人とNative Speaker8名を含む講師陣10人は、ハードかつ楽しい「100%純生英語」で“English Only(英語のみ)”の生活を送りました。

チームごとにゲーム等を通して英語によるコミュニケーションを図るアクティビティ、屋外の希望する地を訪れ英語を使用するレクリエーションタイム、満点の星空の下で行われたバーベキューパーティーでNative Speaker講師陣が演じてくれた英語推理劇ゲーム、そして最終日のグループ英語寸劇発表など盛り沢山の活動を通して、参加学生は英語で伝えようとする意志、感覚、そして何よりもそのスキルアップを培った英語漬けの4日間でした。

## 図書館情報

図書館主催「学校図書館と読書指導—滑川道夫の読書指導との関連で—」講演会開催

9月19日(金)、沖縄県大学図書館協議会・沖縄県図書館協会調査研究部共催により大城善盛氏(専門領域:図書館情報学、元同志社大学教授)を講師に招き「学校図書館と読書指導—滑川道夫の読書指導との関連で—」と題して講演会を開催した。学校図書館は本好きの子どもを育成すれば満足だろうか。子どもの読書活動を活性化するために、学校は何をすべきだろうか。そもそも「読書活動」とは何だろうか。国が「子どもの読書活動の推進に関する法律」を制定し、基本計画を2008年に再度閣議決定をする中で、読書の意味(意義)を再吟味し、滑川道夫の読書指導論を参考に、PISA型読解力も取り込んだ21世紀型読書指導論について講演された。ホームページ等で講演会開催のお知らせをしたところ112名の参加者があった。所属団体別内訳:大学関係25名、小・中・高等学校47名、公共図書館関係5名、学生・その他一般35名



## 本学図書館でインターンシップ

本年度、7月10日・11日の二日間、普天間高校から4名の生徒がインターンシップで図書館の整理と運用の実務体験をした。実務体験をとおして「本棚をボタンを押して動かしたこと」、「パソコンで簡単に本が探せたり、他の図書館からコピーしてもらえること」の驚きと、「ラベル張りや印鑑押しを失敗して迷惑かけたこと」、「カウンターで本の貸出ができたことが楽しかった」との感想があった。



## 冷水機設置

学習の合間、のどを潤すため冷水機が2階、3階に設置されました。机上に飲物を置かないよう(結露や転倒で他の利用者に迷惑かけないよう)ぜひ冷水機をご利用下さい。

## 地下への階段手摺(補助用)設置

地下階段への手摺が低く怖いと学生からの意見があり、夏期休業中に階段ステン手摺(補助用)を設置しました。これからも学生の意見を取入れ、図書館内の施設が安全に運用されるよう努めます。





2006年度より毎年、主に起業を志す学生を対象に、「学生ベンチャー起業家育成支援セミナー」を開講している。本セミナーは、実務現場で必須とされる企画・調整そして進行管理能力の涵養を図ることを目的として開催している。本年度は、10月に講習会を4回開催するとともに、受講者が企画し運営する「QRコード体験教室」を11月1日、2日に読谷村で催された「読谷まつり」会場で開催した。

昨年10月、読谷村が総務省に「読谷ユビキタス村づくり計画」を提案した際に、当研究所は計画実施主体の一員として計画書作成を支援するとともに、本年2月16日には「産学官地域連携モデル事業」として、関根千佳(株式会社ユーディット代表取締役社長)氏をお招きし「スローなユビキタスライフ」というテーマの講演会を読谷村で開催している。

情報化社会にあっては、技術的可能性だけでなく、日常生活の目線で情報の利用可能性に対する認識を深めることも極めて重要である。食品などの表示によく使用されており、携帯電話で簡単に読み込めるQRコードに素肌感覚で触れて頂くことが、今回の「QRコード体験教室」の狙いであった。

お祭り会場の雰囲気とそぐわぬ少々お堅い内容の催しとなったが、延べ180名ほどの方がQRコード付きの記念写真や名刺に興味を示して下さり、説明を聞くために足を止めて下さった。大学に付置された研究所だからこそ出来る地域との連携を模索する中、学生の創意と実践を産学官が連携して支援することができ、意義あるセミナーとなった。



5月21日(水)、3号館106号教室において、「沖縄とジェンダー」をテーマに勝方=稲福恵子氏(早稲田大学教授)が講演を行った。この中で勝方講師は、近代的な社会文化システムにおける二項対立の図式とは異なる文化として、沖縄の「てーげー主義」を取り上げ、あいまいさや矛盾に対する耐性が強くグレーゾーンが広がる「てーげー主義」に人々が安らぎと癒しを求め憩うようになってきていると指摘し、ジェンダーとの関連から「てーげー主義」の再評価を試みた。

また、7月17日(木)には図書館AVホールにおいて、前田成東特別研究員(東海大学教授)が「規制緩和と自治体—公共交通の分野を素材として—」をテーマに講演を行った。1990年代頃から始まった規制緩和により、民間活動の自由度が拡大し、行政の責任領域が見直されているが、その中ではバスなど公共交通の領域では地方を中心に反対に民間業者が撤退するという傾向が顕著になっていることを示し、「住民の足」を確保するために自治体がどのような方策を行っているかを考察した。



## 安里硬式野球部監督より花の苗・プランター寄贈



今年1月、安里嗣則(あさと つぐのり)硬式野球部監督より花の苗とプランターの寄贈がありました。きっかけは、県外遠征に行った際、他大学の構内に多くの花が咲いているのを見て本学でも出来ないかと考え始めたそうです。

正門、うりずん広場周辺を中心とする構内に硬式野球部員、マネージャーが安里監督指導のもと花を植え日々水撒きを行っています。

現在、構内には約150鉢(夏用70鉢、冬用40鉢、年中用40鉢)のプランターに35種類の色鮮やかな花が咲いています。中には、午前中咲き方方には萎んでしまう珍しい種類の花もあり、本学を訪れる方の目を楽しませています。



## 全九州卓球選手権大会 女子1部リーグ初優勝

5月16日から18日まで熊本県で開催された全九州学生卓球選手権大会において、女子卓球部が1部リーグにおいて初優勝し、5月22日学長を表敬訪問した。

大会は全日本大学対抗卓球選手権大会(8月:広島県)の選考も兼ねており、優勝した女子卓球部は全国大会の出場権(1部リーグ上位4チームまで)を獲得した。監督の柴崎准教授は「厳しい試合の連続であったが、最後まで諦めなかったのが優勝につながった。全国大会でも頑張りたい」と喜びを語った。報告を受けた富川学長は「本学体育系クラブのレベルは高いものがあり他のクラブや学生の励みにもなります」と激励。

全国大会の結果は、惜しくも予選リーグで敗退した。



# 大学弁当リーグ

昨年に引き続き、沖縄ファミリーマート主催「学P沖縄リーグ2008」が8月1日から11月19日まで開催されました。今回のテーマは、「沖縄県産品食材の活用」。

コンビニ弁当部門(沖縄国際大学・琉球大学・名城大学・沖縄大学)にデザート部門(沖縄県立芸術大学・沖縄キリスト教学院大学)が加わり、県内6大学がインターンシップ形式で商品開発からCM作成までファミリーマートのスタッフの皆さんの指導を受けながら行いました。

商品は10月24日～11月10日までの2週間期間限定で販売され、今年は沖縄そばとタコス合わせた「タコランツァ」(価格:320円)を販売し、11,000食を売り上げました。



CM撮影の様子



## タコランツァ発売しました。

## 平成20年度 特待奨学生30名に証書交付

10月3日、各学部教授会において、平成20年度の特待奨学生証書交付式が行われた。

本学特待奨学生は「学業・人物ともに優秀で、他の模範となる学生」という基準で選考され、今回、交付対象となった30名(法学部6名、経済学部6名、産業情報学部6名、総合文化学部12名)には、授業料・施設設備資金に相当する額の奨学金810,000円が給付された。

今回の対象者の中には、3年連続や2年連続で選出された学生もあり、交付式では各学部長からその優秀な成績と真面目な勤勉ぶりに対する賛辞が述べられた。交付を受けた学生らは「特待奨学生に選ばれたことを誇りに思います。これを励みに、これまで以上に頑張りたい。」と感謝の言葉と今後の抱負を述べた。



経済学部



産業情報学部



総合文化学部



法学部

# 学生インタビュー

現在、レキオスFCとプロ契約を結んで活躍している大城さんにビーチサッカーについて語っていただきました。



経済学部 地域環境政策学科 3年次 大城 道生(おおしろ みちお) 出身高校:美里高校  
高校時代、県ハブリーグ大会において得点王、最優秀選手に選ばれる。

サッカーをするきっかけは?

兄の影響で小学校3年生から始め、サッカーの基本を兄から教わりました。

現在の活動状況は?

レキオスFCとプロ契約を結び、練習は午前中週6回、授業は午後からと卒業に向けて日々頑張っています。

ポジションは?

ピボと言って通常のサッカーではFW(フォワード)と同じポジションになります。  
県内選手が日本代表に多く選ばれ活躍されていますが、県内選手が多い理由はあるのでしょうか?

県内は環境が整っていて、1年中豊富な練習が出来るからです。

主な大会成績

2006ビーチサッカー全国大会:優勝 2007ビーチサッカー全国大会:優勝

FIFAビーチサッカーワールドカップ2008inマルセイユ:予選敗退

今後の目標

来年も日本代表に選ばれて本大会(UAE:アラブ首長国連邦)でベスト4以上、メダルを取って多くの方々にビーチサッカーを知ってもらい広めていきたいですね。



## 株式会社リクルート雑誌に琉球風車が取材を受けました

株式会社リクルートが発行している、高等教育の専門誌リクルート「カレッジマネジメント」。全国の大学・短期大学・専修学校の理事長、学長、副学長、事務局長に無料で送付されています。

7月14日、その冊子の中の「当代学生のリーダー」のコーナーの取材で、本学エイサーサークル「琉球風車」の学生代表、経済学部地域環境政策学科4年次保良真弓(やすらまゆみ)さんが、インタビューを受けました。

また、サークルのメンバーを交えての写真撮影も行われ、沖縄の夏を象徴するエイサーの雰囲気をも十分に表現する元気な笑顔を見せてくれました。インタビューの内容は、9月1日発行の通巻152号に掲載されました。



# 学生インタビュー

本学と単位互換協定を結んでいる東京の桜美林大学より1年間国内留学生として学んでいる経済学部 地域環境政策学科2年次の加藤 一政(かとう かずまさ)君に沖縄での生活などについて話を聞きました。



沖縄での生活について?

時間の流れがゆっくりしていますね。夏は暑いイメージがありましたが、風があり涼しく東京の方が暑く感じます。沖縄の観光について学びたく、普段は観光地巡りや路地にあるマチヤグラー(小さい個人経営商店)巡りをしています。

本学エイサーサークル琉球風車に入学されていますがエイサーをやると思ったきっかけは?

桜美林大学の説明会で、前年度に国内協定留学生で参加していた小野間昌和(おのま まさかず)君が琉球風車に入学していたのを知り色々話を聞いて決めたのがきっかけです。

エイサーの魅力は何ですか?

一番の魅力は地域性がある所だと思います。エイサーは旧盆などが近づく地域の方々がワクワクするのを見て人を取り込む力があると思います。エイサーをやっている方も誇りを持っているのが伝わって来ますね。

桜美林大学でもエイサーサークル桜風(おうかじ)を立ち上げたようですが活動状況は?

人数は20~30名いて大学生だけではなく、沖縄県出身の地域の方も参加しており太鼓などの提供もいただいています。

普段の活動は、大学周辺商店街主催のナイトバザールに月1回参加し、地域の活性化にもつながっています。また、神奈川県相模原市の育成プロジェクトに採用され、相模原市のイベントにも参加しています。

7月、8月には、東京三大エイサー祭り(中野チャンブルーフェスタ、新宿エイサー祭り、町田エイサー祭り)にも参加しました。11月1日、2日に開催された桜美林大学祭に琉球風車からも20名ほどが駆けつけてくれて会場を盛り上げてくれました。

今後について

桜美林大学のエイサーは技術云々ではなく、エイサーを通して人と人のつながりを大切に、桜美林大学と沖縄国際大学の交流の架け橋になれたらと思っています。



# 平成20年度研究費交付決定額一覧

## 特別研究費

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	特定C	法学部	教授	田中 稔	損害賠償範囲と損害賠償額算定期間の関連性	492,000
2	特定C	法学部	准教授	大山 盛義	フランチャイズ契約と労働法の交錯	492,000
3	特定C	経済学部	教授	呉 錫畢	コモズの経済評価と環境保全に関する実証的研究	492,000
4	特定C	経済学部	准教授	村上 了太	タバコと酒に関する企業の社会的責任	492,000
5	特定C	産業情報学部	教授	安里 肇	eラーニングにおける学習支援管理システム構築に関する研究	492,000
6	特定C	産業情報学部	教授	又吉 光邦	現実の事象データから自動的に法則を同定する研究	276,000
7	特定C	総合文化学部	教授	上田 幸彦	高次脳機能障害者の地域生活に対する援助法の探索	492,000
8	特定C	総合文化学部	准教授	李 イニッド	異文化間相互行為における非言語ストラテジーの使用-日本語・中国語・英語話者の比較-	492,000
9	特定C	総合文化学部	准教授	安次 富郁哉	高齢者介護に従事する専門職員の心身ケアマネジメントモデルの構築	492,000
10	奨励	法学部	教授	井村 真己	アメリカ公正労働基準法 (FLSA) の歴史的展開に関する研究	985,000
11	奨励	法学部	准教授	上江 洲純子	再生債務者・再生手続機関の位置づけ-民事再生実態調査を基礎として-	738,000
12	奨励	経済学部	准教授	井本 伸	長期経済成長モデルを用いた家計の就業行動に関する理論的分析	610,000
13	奨励	経済学部	准教授	松崎 大介	流動性制約下における賦課年金制度および労働供給に関する研究	985,000
14	奨励	経済学部	准教授	根路 銘もえ子	観光プラン提案・案内システム「デジタルツアーコンダクター」の開発	985,000
15	奨励	経済学部	講師	島袋 伊津子	リレーションシップ・バンキングの収益性	960,000
16	奨励	経済学部	講師	山川 彩子(矢敷)	貝塚から海と人の歴史を探る-琉球列島における食文化の解明と海岸環境の変遷-	552,000
17	奨励	産業情報学部	准教授	平良 直之	意思決定問題における集団評価の構造分析	985,000
18	奨励	産業情報学部	准教授	池宮 城尚也	金融政策ルールへの慣性とマクロ経済の変動	985,000
19	奨励	産業情報学部	講師	木下 和久	日本企業のコストマネジメントの変化	200,000
20	その他	法学部	教授	武田 一博	「脳の外部記号としての言語」に関する研究	400,000
21	その他	法学部	教授	照屋 寛之	路面電車の公共交通としての展望	312,000
22	その他	法学部	教授	熊谷 久世	外国親子関係確定判決のわが国における承認について	400,000
23	その他	産業情報学部	教授	伊礼 武志	「企業情報開示の理論的研究」	355,000
24	その他	産業情報学部	教授	大城 建夫	国際化、情報化の影響による会計及び税務問題	260,000
25	その他	産業情報学部	教授	清村 英之	高等学校における商業教育に関する一考察	363,000
26	その他	産業情報学部	准教授	鶴池 幸雄	会計基準の国際化による我が国の会計情報の変容と課題	393,000
27	その他	産業情報学部	准教授	大井 肇	IT効果測定に関する一考察	399,000
28	その他	総合文化学部	教授	葛綿 正一	馬琴の文学史的研究(1年次)	337,000
29	その他	総合文化学部	准教授	山口 真也	沖縄県における学校図書館活用状況に関する調査-「調べ学習」の実施状況と職務分担状況を中心として-	125,000
30	その他	総合文化学部	教授	江上 幹幸	宮古島における先史時代の人々のくらし	400,000
31	その他	総合文化学部	准教授	藤波 潔	イギリス極東外交政策とアヘン	240,000
32	その他	総合文化学部	准教授	澤田 佳世	戦後沖縄の出生力転換と生殖をめぐる女性たちの交渉-出生力要因のジェンダー分析にむけて-	400,000
33	その他	総合文化学部	教授	大下 祥枝	フェリックス・ピヤのメロドラマ「バリの屑屋」(1847)について	400,000

## 科学研究費補助金

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	基盤B	総合文化学部	教授	高橋 俊三	琉球八重山方言の言語地理学的な研究	1,800,000
2	基盤B	総合文化学部	教授	石原 昌家	沖縄県伊江島の資料に基づく戦後沖縄の平和運動史に関する実証的研究	3,100,000
3	基盤B	総合文化学部	教授	小熊 誠	文化の伝播とその変容に関する中国福建省と沖縄における比較研究	2,700,000
4	基盤C	法学部	准教授	平 剛	基地所在市町村の財政構造および地域経済に関する実証研究	500,000
5	基盤C	総合文化学部	教授	江上 幹幸	東部インドネシアに残る巨石記念物の民俗学的調査研究	1,100,000
6	基盤C	総合文化学部	教授	狩俣 恵一	沖縄県宮古島地方の祭祀劣化映像資料のデジタル化と文化政策的活用方法の研究	800,000
7	基盤C	総合文化学部	教授	望月 謙二	PBLにおけるコミュニケーション指導とその評価法	900,000
8	基盤C	総合文化学部	准教授	トナドクイグアルコウ	超長寿者の病歴および病態に関する研究-沖縄とハワイと全米の比較-	1,000,000
9	若手B	法学部	准教授	吉次 公介	「コラポレーター」としての沖縄保守勢力-アメリカのヘゲモニー支配と沖縄	900,000
10	若手B	産業情報学部	教授	原田 優也	アジア中間層における日本製文化コンテンツの不正利用行動に関する理論的実証的研究	1,200,000
11	若手B	産業情報学部	講師	木下 和久	日本企業のコストマネジメントの変化	800,000
12	若手B	総合文化学部	准教授	柴崎 礼士郎	主語の情報連鎖機能と談話構造に関する研究-歴史英語から見た言語進化-	500,000
13	若手Aアップ	総合文化学部	准教授	李 イニッド	外国語非言語伝達の習得と運用について-英語・日本語・中国語学習者を中心に-	1,320,000

## 公益信託宇流麻学術研究助成基金

No.	研究種目	所属	職名	交付決定者	研究テーマ	交付決定額
1	人文・社会科学	産業情報学部	教授	原田 優也	消費者行動の調査と分析手法に関する応用研究	134,250
2	国際交流	総合文化学部	教授	大城 朋子	(新)ウチナー事情入門(Views of Okinawa)の開発	80,250
3	人文・社会科学	総合文化学部	教授	小熊 誠	上海における「沖縄賢人会」および沖縄県人の活動に関する研究	134,250
4	人文・社会科学	総合文化学部	准教授	安次 富郁哉	独居高齢者の食品購買行動の動向と課題-食生活支援システムの構築に向けて-	101,250

# 平成19年度 事業報告(個別業務計画各事業の抜粋)の開示

私立学校法第47条第2項に基づき、平成19年度の本学事業内容を開示いたします。本学は今後も「地域の私立大学として」、建学の理念・目的、教育目標を前提に、自主的・主体的に教育水準の改善向上を図り、健全な経営に向けて継続的に取り組んで参ります。(紙面の都合から抜粋といたしました。全文は、本学Webページで公開しておりますので、そちらもご覧いただければ幸いです。)

## 1. 教育・研究関係

### (1) 教務

経済学部では改革委員会を設置し、カリキュラム改正や就職支援等について審議し、改善を図った。

大学院地域文化研究科人間福祉専攻臨床心理領域では、「臨床心理士」受験資格第2種指定校から第1種指定校への変更申請のため、面接室やプレイルーム、心理検査室、カンファレンスルーム等の条件施設設備の改善を行った。

環境科学実験室(3-207)の改造と機器分析室(3-201)設置工事を行うと共に、実験設備、実験用基本機器等を整備した。

平成21年にCALLシステムの入替えを予定しているため、平成19年度はe-learning展示会及び国内外の最新CALLシステムの視察を行った。

6月に沖縄コンベンションセンターにおいて開催された第21回太平洋学術会議で、本学はパネルA・パネルBセッションの企画運営に携わり、学内外の参加者を迎えて活発な議論が行われた。

### (2) 学生募集に関する事業

沖縄コンベンションビューロー等との連携による県内8大学合同リーフレットの観光地への設置と配布、全国5会場(札幌・仙台・東京・大阪・福岡)での入試説明会実施、沖縄県離島部における入試説明会に加え、広域課の「出前講座」と教員による大学説明会の案内等で受験生の拡充を図った。

オープンキャンパスの実施にあたって、参加者提供グッズの種類を充実させたほか、北部地区参加者の便を図るため、送迎バスを運行させた。

推薦入試における推薦成績基準(評定平均値)、調査書及び小論文の換算点について、見直しを行った。

### (3) 国際化に関する事業

マコーリー大学との交換留学の可能性について検討を開始した。また、これまでの懸案事項であった米国の協定校開拓として、アーカンソー州にあるヘンダーソン州立大学との協定締結に向け作業を開始した。

私費留学を余儀なくされる学生の増加を考慮し、従来の留学制度に加え、新たなプログラムの制度について検討を開始した。

## 2. 学生関係

### (1) 奨学金の拡充

本学関係奨学金25種類について、53人の採用枠に230人の応募があり、高倍率であったことから予算調整し、一般奨学金の採用率アップに努めた(74人採用)。後援会奨学金についても2年連続で増額していただき、30人を採用した。また、大学院博士課程後期に進学する学生への支援のため、波平勇夫大学院博士課程奨学金を新設した。

### (2) 学生補助金の拡充

放送研究部の全国大会派遣、琉球芸能文学研究会の定期公演、鼓舞楽団浦風の各種イベントにおける学外出演、本学学生が企画運営した「ていんさぐぬ花祭り」|NO FLY ZONEコンサート等、学内外における学生のめざましい活躍により、課外活動補助金については94%の高執行率となった。

しかし、学外ゼミ費や新入生対象に実施されるMTの補助金の執行率は振るわず、次年度以降告知に力を注ぐ必要がある。

### (3) 学生相談室の拡充

医務室から独立。ハラスメント相談室を兼ねたキャンパス相談室としてリニューアルし、受付(インターク)から相談までを専門相談員が一貫して行えるようになった。

校医の1人に精神科医を採用し、精神科医によるこころの健康相談を月1回できるようになり、精神科医による専門相談員のサポートも可能になった。

### (4) 福祉総合支援室

関連規程の整備や機能の整備と実質的な支援の開始、正課科目ボランティア演習A及びBとの連携等の取組みを実施した。

### (5) 就職活動の支援

夏期休業期間中にインターンシップを実施し、188人の学生が実習を行った。事前オリエンテーションには400名余の参加者があり、関心の高さが窺え、今後希望者の大幅な増加が予想される。

キャリアカウンセラーや沖縄県キャリアセンターの協力を得て各ゼミに就職についての出前講座を実施した。実施ゼミ担当教員の評価も高く、今後一層強化していきたい。

学内合同企業説明会の運営業務を民間業者に委託し、県内外計34社の協力を得て、本学初の学内合同企業説明会を実施し、好評を得た。

### (6) 学生の危機管理対応

事件・事故防止のため、新入生オリエンテーション時に講話指導を実施した。

また、夏期休暇に向けて交通安全、水難事故防止等の注意を促すチラシを配布する他、マルチ商法やアポイントメントセールス、迷惑メールなどの消費者トラブルの被害に遭わないよう注意を促す掲示を行った。

### (7) セミナーハウスの運用改善

食堂業務を委託していた業者との契約解除により、平成19年8月より管理運営及び食堂業務を嘱託職員で賄うことになった。

## 3. 情報化関係

### (1) 図書館関連事業

文庫・新書の充実をはかり、専用の書架コーナーを2階出入口近くに設置した。幅広いジャンルの知識・教養書を約8,700冊揃えた。

米軍ヘリ墜落事件関係資料コーナーを2階グループ学習室3内に設置し、関係資料を展示している。

自己点検・評価報告書「沖縄国際大学の現状と課題―本学図書館の現状と課題―」発行。  
OPAC機能の強化や携帯電話OPAC、My Library(Webサービス機能)の導入を伴う図書館システムの更改、新入生対象の図書館利用オリエンテーションの充実、オンラインデータベースの導入を行った。

### (2) 情報センター関連事業

学内の情報設備機器及びそれらを活用したサービスについて、情報コンセントやPC&CALL複合教室の整備・拡大、共通認証システムセキュリティや専用線の強化、グループウェアのリリース、証明書発行機の増設、セキュリティ関連機器及びソフトウェアの導入を行った。

## 4. 管理運営・施設設備関係

### (1) 業務運営

学生及び保護者の経済的支援を図るため、県内3銀行と業務提携協定を締結し、基準金利より低い金利での貸付を行う教育ローンを導入した。

本学職員のキャリア形成強化について、新採用事務職員に対しマナー研修を施したほか、中堅事務職員2人を日本私立大学協会九州支部事務研修会に参加させた。

9月には、事務職員を対象に、学外から講師を招いて、大学改革についての課題と現状分析、入試業務の現状、諸大学における学部改組のトレンド、退学者防止支援事例、私学関係補助金の積極的な活用についての講演を開催した。

科目担当者として採用された専任教員が科目を担当できないという弊害の改善と、教育環境活性化を目的とし、部局館長会において非常勤教員の任用に際して年齢に上限を設ける申し合わせを定めた。

### (2) 情報公開・管理

大学案内ビデオを作成し、県内各高等学校への配布等、学生募集業務での広報活動を行った。

インターネット利用情報公開においては、ホームページの使いやすさの向上に努め、日経BPコンサルティングが行っている「全国大学サイトユーザビリティ調査2007/2008」において総合ランク3位となった。今後も更なる使いやすさの向上と公開内容の質の向上に努めていく。

学報は例年どおり4月と12月の2回(合計17,000部)発行した。

2008年度大学案内を24,000部発行し、受験生や一般向けに配布した。大学案内はデジタルパンフレット化し、インターネット上での閲覧も可能にした。

大学要覧を2,000部発行し、後援会支部総会等で配布した。

空港内看板広告の継続実施、その他スポーツイベント等に広告を出稿した。

公開講座については、以下のとおり。

公開科目受入実績:54人(前年度36人)

高大連携高校生受入実績:3人(前年度6人)

学外講座実施実績:11講座 627人(前年度275人)

大学入門講座:12講座 488人(前年度410人)

学内定例講座:8講座 269人(前年度269人)

講演会:1回 18人(前年度未実施)

### (3) 施設設備

13号館の建設については、平成19年6月の建築基準法改正により、設計期間の大幅な遅れと建築確認・検査の厳格化に伴う確認申請許可の遅れが生じた。防音対策事業における補助金交付申請も行っており、平成19年度分「実施設計に係る補助金交付決定通知」を受け、引き続き平成20年度分本工事についても併せて遂行している。

事務室の本館への移転に伴う空きスペースの有効活用の為、3-57号館の改造工事を実施した。

2号館は老朽化に伴い解体し、跡地に13号館を建設することとなった。

米軍ヘリ墜落による旧本館に関する事業【本館前環境整備工事】について、前年度設置した本館前ポケットパーク横に、被災壁の設置工事を春期休業中に実施した。

3-5号館壁面等の剥落の可能性が高かったため、安全確保のため夏期休業期間中に補修工事を実施した。

環境・省エネ問題に積極的に取り組むため、環境マネジメントシステム(エコアクション21)の導入検討について、プロジェクトチームを発足し、その対応を検討した。平成20年度中に導入する予定で業務を進めている。

### (4) 備品

教育研究機器備品以外は、事業計画どおり現用品を使用して経費節減に努め、原則抑制した。

# 平成19年度 決算報告書

## 【財務の概要】

2007年度は全入時代の到来といわれていたのが、短大部から学部移行、学部等の増設による大学が増え、また、入試制度の多様化とセンター試験の利用大学の漸増とともに、この数年、大学進学率が右肩上がりに推移し、志願者が増加した。全入時代は先送りしたことになるが、実質的には淘汰する厳しい大学が現実化している中で、依然として全入時代が差し迫っているのは否定できない。現に約4割の私立大学が定員割れをおこなっている。また、その要因には志願者が都市圏の有名校に偏る地方の小規模の大学が減少傾向にあり、二極化が進んでいることである(日本私立学校振興・共済事業団調査資料)。益々、学生に評価される大学に集中し、各大学が一定の入学生定員を確保するためには、学校法人の教育理念に沿った新たな経営基盤の構築と大学改革の戦略的な取り組みが必要である。また、大学教育改革の支援等取り巻く環境が目まぐるしく変動している中で、競争的資金の確保に向けて今後大学全体が職員一丸となって組織体制の強化を図ることである。

以上のことから鑑み、本学はこれまで「中長期財政計画」を策定して財政運営を図ってきたが、平成19年度から厳しい環境変化に対応し得る教育理念・目的に沿った恒常的に健全な大学経営を維持・発展させるための総合計画(財政計画・経営計画)として「中長期経営計画」へと転換した。この中長期経営計画は、各部署からの要求に基づき、個別構設計画(戦略的意思決定)と個別業務計画(戦術的意思決定)に分類され、中長期5カ年経営計画(平成19年度～平成23年度間)に沿った事業計画及び予算編成の基本方針と連動し、次の3項目を財政運営の基本方針に掲げた。

- (1) 収支均衡の財政運営を図る。
- (2) 借入金に依存しない財政運営を図る。
- (3) 自己資金が調達できる限度内での施設設備の投資を行う。

平成19年度の決算は、中長期経営計画・事業計画及び予算編成の基本方針に基づく平成19年度～平成23年度間を見据えた最初の財務状況である。経年の経費、継続事業、新規事業等実行性の高い予算の配分と過去の実績を踏まえた経費節減に努め、財政基盤の健全性を図った。その結果、節減を要すべき経費(消耗品費、旅費交通費、印刷製本費、新聞雑誌費等)の削減効果が見え、全学的に浸透しながらも、教育活動目的、学生活動目的及び情報化に係る教育充実の質的向上を図るために有効に執行すべき経費(施設設備賃借料、業務委託費、学生補助金、研究助成費等)の予算措置にも拘わらず、依然として実行性が伴わない大幅な未執行額が生じ、収入超過額の要因となった。また13号館建設工事の確認申請等の遅延による着手できない状況になり、次年度に繰越され、関連経費等も未執行となった。

収支バランスのとれた健全な財政運営を図ることが目的であり、大幅な収入超過額が生じる未執行額の発生要因は必ずしも教育研究活動等の質的向上に繋がらない。今後も綿密な計画と実績に基づく配分の見直しを図り、実行性のあるしつかりとした財政運営を確立することである。以下、本年度の財政状況を資金収支計算書、消費収支計算書及び貸借対照表で、また、直下6か年間の消費収支並びに貸借対照表財務比率の推移を報告する。なお、この計算書は学校法人会計基準(昭和46年4月1日文部省令第18号)に従い作成しており、様式は補助金交付の観点からの表示区分になっている。

## 【資金収支計算書】

資金収支計算書は、当該会計年度の収入及び教育研究並びにその他諸活動に使用したすべての資金収支の内容等を明らかにしたものである。

### 資金収支計算書 (自平成19年4月1日至平成20年3月31日) (単位:円)

支出の部				収入の部					
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異		
人件費支出	2,698,357,951	2,572,933,991	125,423,960	⑧	学生生徒等納付金収入	4,650,767,000	4,746,337,000	△95,870,000	①
教育研究経費支出	1,312,088,000	1,067,755,795	244,332,205	⑨	手数料収入	94,220,000	106,886,850	△12,666,850	②
管理経費支出	226,543,000	180,286,656	46,256,344	⑩	寄付金収入	46,250,000	46,579,600	△329,600	③
借入金等利息支出	31,672,000	31,671,875	125		補助金収入	470,607,000	461,587,000	9,020,000	④
借入金等返済支出	112,320,000	112,320,000	0		資産運用収入	34,024,000	58,229,937	△24,205,937	⑤
施設関係支出	350,760,000	77,224,000	273,536,000	⑪	資産売却収入	0	0	0	
設備関係支出	161,633,122	148,636,705	12,996,417	⑫	事業収入	11,145,000	9,882,360	1,262,640	⑥
資産運用支出	1,221,086,000	1,071,365,258	149,720,742	⑬	雑収入	141,227,000	145,775,535	△4,548,535	⑦
その他の支出	1,359,162,381	1,254,575,432	104,586,949		借入金収入	2,700,000	540,000	2,160,000	
予備費	(32,911,182)	7,088,818	7,088,818	⑭	前受金収入	2,067,427,000	1,983,439,515	83,987,485	
資金支出調整勘定	△266,694,028	△273,043,721	6,349,693		その他の収入	1,872,707,214	1,426,523,216	446,183,998	
次年度繰越支払資金	8,548,852,172	9,193,871,767	△645,019,595		資金収入調整勘定	△2,263,413,835	△2,183,392,292	△80,021,543	
支出の部合計	15,762,869,416	15,437,597,758	325,271,658		前年度繰越支払資金	8,635,209,037	8,635,209,037		
					収入の部合計	15,762,869,416	15,437,597,758	325,271,658	

## 【資金収支決算概要】

- ① 学生生徒等納付金収入のうち、授業料収入及び施設設備資金収入は延納者数の実績を見込み予算を圧縮したため収入増となった。学生募集に対する入学生定員の充足率は人間福祉学夜間コースを除くと1.25倍維持し、決算においては収入増となった。
- ② 手数料収入のうち、入学検定料収入は前年度実績に対し、志願者の減少を予測し、予算を圧縮した結果、収入増となった。
- ③ 寄付金収入のうち、特別寄付金収入は、後援会及び校友会からの教育研究活動等に対する補助金収入があるものの依然として帰属収入に占める収入が少なく、尚一層の学外資金確保に努めなければならない。前年度並みの収入となった。
- ④ 補助金収入のうち、防音防止対策事業補助金収入(13号館建設防音工事に係る設計費)があるものの経常費補助金、研究設備整備費補助金(図書)、留学生修学補助金及び大学改革推進補助金(特色CP)は実績見直しによる収入減となった。
- ⑤ 資産運用収入のうち、有価証券等の積極的資産運用と金利情勢が好転したことにより大幅な収入増となった。今後も積極的に有価証券等の運用を図る。
- ⑥ 事業収入は、ほぼ予算どおりの収入であるが依然として受託事業収入の確保に期待できず、今後も全学的に学外資金確保に取り組む努力が必要である。
- ⑦ 雑収入は、主に退職金財団交付金収入の実績見込み額による収入増である。
- ⑧ 人件費支出は、専任教員数(未採用)、専任職員無給休暇、超過勤務手当、入試関係手当等の予測による差異であるが退職金支出については、学長退職金算定見直しにより予算不足が生じ、大幅な予備費使用となった。
- ⑨ 教育研究経費支出は、節減効果と教育の質的向上を図るための有効に執行すべき経費の未執行による差異。
- ⑩ 管理経費支出は、節減効果及び未執行による差異。
- ⑪ 施設関係支出は、13号館建設工事建築確認申請未許可による工事遅延のため、未執行(建設仮勘定支出)が生じた。
- ⑫ 設備関係支出は、見積単価・数量の変更による購入価格の減額と計画変更による差異。
- ⑬ 資産運用支出は、有価証券購入予定の未執行による差異。
- ⑭ 予備費の主な支出は、学長の退職金算定見直しによる教職員退職金支出の使用額。

## 【消費収支計算書】

消費収支計算書は、当該会計年度の消費収入内容及び執行状況を示し、学校法人の経営状況を明らかにしたものである。

### 消費収支計算書 (自平成19年4月1日至平成20年3月31日) (単位:円)

支出の部				収入の部					
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異		
人件費	2,638,698,246	2,540,268,506	98,429,740	⑧	学生生徒等納付金	4,650,767,000	4,746,337,000	△95,870,000	①
教育研究経費	1,707,078,000	1,447,692,921	259,385,079	⑨	手数料	94,220,000	106,886,850	△12,666,850	②
管理経費	247,185,000	210,376,226	36,808,774	⑩	寄付金	46,250,000	51,656,228	△5,406,228	③
借入金等利息	31,672,000	31,671,875	125		補助金	470,607,000	461,587,000	9,020,000	④
資産処分差額	195,486,000	198,133,074	△2,647,074		資産運用収入	34,024,000	58,229,937	△24,205,937	⑤
予備費	(26,501,355)	13,498,645	13,498,645	⑭	資産売却差額	0	0	0	
消費支出の部合計	4,833,617,891	4,428,142,602	405,475,289	⑰	事業収入	11,145,000	9,882,360	1,262,640	⑥
当年度消費支出超過額	0				雑収入	141,227,000	145,775,535	△4,548,535	⑦
当年度消費収入超過額	130,232,109	665,928,274		⑰	帰属収入の部合計	5,450,640,000	5,580,354,910	△129,714,910	⑱
前年度繰越消費収入超過額	1,223,206,143	1,223,206,143			基本金組入額合計	△486,790,000	△486,284,034	△505,966	⑲
翌年度繰越消費収入超過額	1,353,438,252	1,889,134,417		⑰	消費収入の部合計	4,963,850,000	5,094,070,876	△130,220,876	⑲

## 【消費収支決算概要】

- ① 帰属収入合計は、学生生徒等納付金等に対する学生数・受験者の減少を予測し、前年度より予算を圧縮したが受験者数・募集人員は予定どおり確保し、入学金及び検定料収入が実績増となり決算時においては増額となった。また、資産運用収入も増額となった。補助金収入等(本館に係る防音工事補助金・賠償金)を除くと前年度並みの収入である。
- ② 基本金組入額は、借入金返済に係る組入額及び第2号基本金の校舎等改築資金、第3号基本金の国際交流基金・奨学金等を計画どおり組入れた。第1号基本金は、主に13号館建設工事に係る建設仮勘定支出の未執行による未組入れと教育研究用機器備品の購入を上回る大幅な除却により繰り延べが生じたため、結果的には減額となった。
- ③ 消費収入の部は、帰属収入合計が全体的(補助金・事業収入除く)には増額となり消費支出の部は、消耗品費、旅費交通費、新聞雑誌費、印刷製本費等経費の節減と研究活動、学生活動、情報化に係る経費の大幅な未執行によって当年度消費収入超過額が予算を上回り、翌年度繰越消費収入超過額は更に累積し、1,889,134千円となった。

## 学内人事

平成20年10月1日付

### 【昇任】(教育職員)

産業情報学部教授 鵜池 幸雄 産業情報学部准教授  
総合文化学部教授 兼本 敏 総合文化学部准教授

### 【昇任】(事務職員)

図書館図書課長補佐 宮国 克枝 平成20年7月1日付  
事務局長庶務課人主任 富村 菊江  
教務部教務課学務二主任 島袋 彰  
教務部入試課入試主任 玉那覇 淳  
教務部大学院事務室主任 坂名城政弘  
学生部就職課就職主任 笹田 章生  
図書館図書課運用主任 崎原 梢

### 【配置換】(事務職員)

事務局企画課長補佐 富里 珠美 平成20年7月1日付  
教務部教務課長補佐 徳原 峰一  
教務部入試課長補佐 赤嶺由美子  
情報センター課長補佐 井口 忠  
国際交流センター課長補佐 岸本ジャン  
事務局庶務課秘書主任 比嘉 綾子  
教務部教務課学務二主任 嶺井かおり  
図書館図書課整理主任 仲西かおり  
図書館図書課係員 相馬 沙織

**【貸借対照表】**

貸借対照表は、当該会計年度決算時点における財政状態を明らかにしたものである。

**貸借対照表（平成20年3月31日現在）（単位:円）**

**【資産の部】**

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	14,877,629,721	14,497,140,386	380,489,335
有形固定資産	10,253,616,947	10,631,005,850	△ 377,388,903
土地	1,622,988,150	1,622,988,150	0
建物	5,755,917,627	6,205,393,155	△ 449,475,528
構築物	434,410,863	477,151,972	△ 42,741,109
教育研究用機器備品	248,581,099	267,463,793	△ 18,882,694
その他の機器備品	26,946,327	27,502,021	△ 555,694
図書	2,130,361,423	2,026,326,389	104,035,034
車輛	4,671,458	4,180,370	491,088
建設仮勘定	29,740,000	0	29,740,000
その他の固定資産	4,624,012,774	3,866,134,536	757,878,238
電話加入権	2,550,798	2,550,798	0
有価証券	389,989,958	339,989,958	50,000,000
長期貸付金	720,000	1,760,000	△ 1,040,000
退職給与引当特定預金(資産)	713,000,000	613,000,000	100,000,000
校舎建築引当特定預金(資産)	1,150,000,000	1,000,000,000	150,000,000
減価償却引当特定預金(資産)	1,306,121,789	889,586,531	416,535,258
金秀奨学金引当特定預金(資産)	400,000	500,000	△ 100,000
平敷奨学金引当特定預金(資産)	400,000	500,000	△ 100,000
久高奨学金引当特定預金(資産)	500,000	600,000	△ 100,000
上原奨学金引当特定預金(資産)	400,000	600,000	△ 200,000
長濱奨学金引当特定預金(資産)	6,780,000	6,980,000	△ 200,000
波平博士課程奨学金引当特定預金(資産)	2,000,000	0	2,000,000
校友会教育備品費引当特定預金(資産)	8,250,900	7,500,900	750,000
校友会奨学金引当特定預金(資産)	2,100,000	1,800,000	300,000
第3号基本金引当資産	1,040,721,379	1,000,691,379	40,030,000
預託金	77,950	74,970	2,980
流動資産	9,370,655,438	8,866,550,258	504,105,180
現金預金	9,193,871,767	8,635,209,037	558,662,730
未収入金	171,786,457	225,760,214	△ 53,973,757
貯蔵品	1,866,685	1,688,979	177,706
前払金	1,550,529	1,572,028	△ 21,499
仮払金	0	0	0
短期貸付金	1,580,000	2,320,000	△ 740,000
資産の部合計	24,248,285,159	23,363,690,644	884,594,515

**【負債の部】**

科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	2,147,815,728	2,281,521,213	△ 133,705,485
長期借入金	800,720,000	901,760,000	△ 101,040,000
退職給与引当金	1,347,095,728	1,379,761,213	△ 32,665,485
流動負債	2,513,004,870	2,646,917,178	△ 133,912,308
短期借入金	101,580,000	112,320,000	△ 10,740,000
未払金	271,471,693	348,107,381	△ 76,635,688
前受金	1,983,439,515	2,011,605,835	△ 28,166,320
預り金	156,513,662	174,883,962	△ 18,370,300
負債の部合計	4,660,820,598	4,928,438,391	△ 267,617,793

**【基本金の部】**

科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	15,245,608,765	14,949,354,731	296,254,034
第2号基本金	1,150,000,000	1,000,000,000	150,000,000
第3号基本金	1,040,721,379	1,000,691,379	40,030,000
第4号基本金	262,000,000	262,000,000	0
基本金の部合計	17,698,330,144	17,212,046,110	486,284,034

**【消費収支差額の部】**

科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収支超過額	1,889,134,417	1,223,206,143	665,928,274
消費収支差額の部合計	1,889,134,417	1,223,206,143	665,928,274

科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	24,248,285,159	23,363,690,644	884,594,515

**注 記**

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

● 徴収不能引当金

未収入金の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能見込み額を計上している。

● 退職給与引当金

退職金の支給に備えるため、期末要支給額1,169,267,527円を基にして、私立大学退職金財団に対する掛金の累計額と交付金の累計額との繰入れ調整額を加減した金額の100%を計上している。

(2) その他の重要な会計方針

● 有価証券の評価基準及び評価方法

移動平均法に基づく原価法である。

● たな卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法である。

● 所有権移転外ファイナンス・リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

2. 減価償却額の累計額の合計額 5,482,322,190円

3. 徴収不能引当金の合計額 0円

4. 担保に供されている資産の種類及び額

担保に供されている資産の種類及び額は、次のとおりである。

土地(学校用地)20,707㎡ 168,051,018円

5. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行うこととなる金額 903,465,000円

6. その他財産及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 有価証券の時価情報

	勘定科目	当年度(平成20年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時 価	差 額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	有 価 証 券	270,000,000	287,375,000	17,375,000
	第3号基本金引当資産	199,980,000	204,012,500	4,032,500
(うち満期保有目的の債券)	有 価 証 券	270,000,000	287,375,000	17,375,000
	第3号基本金引当資産	199,980,000	204,012,500	4,032,500
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	有 価 証 券	119,989,958	112,436,400	△ 7,553,558
	第3号基本金引当資産	30,000,000	29,940,000	△ 60,000
(うち満期保有目的の債券)	有 価 証 券	119,989,958	112,436,400	△ 7,553,558
	第3号基本金引当資産	30,000,000	29,940,000	△ 60,000
合 計	有 価 証 券	389,989,958	399,811,400	9,821,442
	第3号基本金引当資産	229,980,000	233,952,500	3,972,500
(うち満期保有目的の債券)	有 価 証 券	-	-	-
	第3号基本金引当資産	229,980,000	233,952,500	3,972,500

(2) 偶発事象

下記について債務保証を行っている。  
校友会 セミナーハウス建築費借入金 21,000,000円

(3) 所有権移転外ファイナンス・リース取引

通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている所有権移転外ファイナンス・リースは次のとおりである。

リース資産の種類	リース料	未経過リース料期末残高
教育研究用機器備品	672,791,829円	313,435,859円
その他の機器備品	42,602,271円	24,829,336円

(4) 関連当事者との取引

該当なし

※この貸借対照表は、学校法人会計基準(昭和46年4月1日文部省令第16号)に従い作成しており、様式は補助金交付の観点からの表示区分になっている。

**学内人事**

平成20年10月1日付

【採用・教育職員】

最終学歴:神戸大学大学院文学研究科英米文学専攻修士課程修了  
担当科目:英語  
就任するにあたっての一言  
気候も人情も温かいここ沖縄の地で、研究・教育に精一杯励みたいと思います。皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。



法学部 法律学科  
准教授 澤 泰人(さわ やすひと)



産業情報学部  
企業システム学科講師  
河田 賢一(かわた けんいち)

【採用・教育職員】

最終学歴:中央大学大学院商学研究科商学専攻博士前期課程(修士課程)修了  
担当科目:商学概論Ⅰ・Ⅱ  
商業史、マーケティング演習、消費者行動概論、消費者行動とマーケティング戦略  
※「消費者行動概論」および「消費者行動とマーケティング戦略」は本年度のみの担当です  
就任するにあたっての一言  
岐阜県大垣市出身ですが、東京・横浜・福島に住んでいたことがあります。社会人・非常勤講師経験を教育等に活かしていきたいと思っています。



教務部 教務課  
上原美和子(うえはら みわこ)

平成20年6月30日付

【退職・事務職員】

勤務年数:19年3ヶ月  
退職するにあたっての一言  
在職中は、皆様のご指導により、業務を進めることが出来ました事を深く感謝致します。本学の益々の発展を祈念します。

## 2009(平成21)年度入学試験日程

	一般入学試験		大学入試センター試験利用入学試験		特別/編入学試験
	前期日程	後期日程	前期日程	後期日程	後期日程
出願期間	2009年1月5日(月) ～1月9日(金)	2009年2月17日(火) ～2月23日(月)	2009年1月5日(月) ～1月21日(水)	2009年2月17日(火) ～2月23日(月)	2009年1月5日(月) ～1月9日(月)
入学試験日	2009年2月4日(水) ★法律学科 ★経済学科 ★企業システム学科 ★英米言語文化学科 ★社会文化学科 ★専門・総合選抜試験 (経済学部/産業情報学部)  2009年2月5日(木) ★地域行政学科 ★地域環境政策学科 ★産業情報学科 ★日本文化学科 ★人間福祉学科	2009年 3月5日(木)  全学部・学科  小論文・面接	大学入試センター試験実施日 2009年 1月17日(土)・18日(日)  ※個別試験は課さない		2009年 2月5日(木)  全学部・学科
合格発表日	2009年 2月17日(火)	2009年 3月13日(金)	2009年 2月17日(火)	2009年 3月13日(金)	2009年 2月17日(火)

### 2009年度 AO 入試実施

2009年度AO入試の出願期間は8月1日～8日で、志願者数は893名でした。第2次審査(面談審査)は、第1次審査(書類審査)の合格者664名を対象に9月6日～20日に実施し、10月8日に最終合格者346名を発表しました。

最も倍率の高かったのは、人間福祉学科(心理カウンセリング専攻)の4.19倍、次いで社会文化学科の3.56倍、企業システム学科の3.39倍の順となりました。全体の倍率は2.58倍でした。

志望学科	募集人員	志願者数	第一次審査合格者数	最終合格者数	倍率	前年度倍率
法律	28	80	68	33	2.42	2.36
地域行政	28	76	66	32	2.38	3.09
経済	29	51	51	33	1.55	2.65
地域環境政策	29	76	64	36	2.11	1.88
企業システム	29	122	84	36	3.39	3.32
産業情報	29	84	81	38	2.21	2.39
日本文化	28	80	60	35	2.29	3.03
英米言語文化	30	103	60	36	2.86	4.00
社会文化	20	89	46	25	3.56	2.58
人間福祉 (社会福祉:昼)	25	65	50	26	2.50	2.00
人間福祉 (心理カウンセリング)	14	67	34	16	4.19	4.50
合計	289	893	664	346	2.58	2.82

### オープンキャンパス実施について

今年もオープンキャンパス(7月13日・8月1日)及びミニオープンキャンパス(6月27日・10月17日)を実施しました。オープンキャンパス参加者数は2日間で延べ2,764名(学科紹介1,180名、体験講座1,584名)、ミニオープンキャンパスでは2日間で延べ200名余りでした。毎回ご好評頂いている現役学生ガイドによるキャンパスツアーを始め、北部地区学生を対象にしたシャトルバスの運行(本学⇄名護高校)、オリジナルトートバッグや沖縄大特製手拭い、マイ箸などのオリジナルグッズを配布、参加者に満足してもらえるようにより充実した内容を企画しました。

オープンキャンパスの目玉である学科紹介と体験講座では、今年から午前と午後それぞれ1コマずつ設定し、見学者が興味のある学科の講座により多く参加できるようにしました。

また、アンケートで多く寄せられた声にお応えて今年から体育系・文化系サークルや部活動団体などの協力を得て、サークル紹介・見学を実施しました。学生によるサークルの紹介・展示や部活動見学を通して、参加者がより身近に大学生活の一部を目にすることが出来たのではないのでしょうか。昼休みを利用したアトラクションでは「琉球風車」、「鼓舞楽団浦風」のエイサー演奏、チアリーディング部によるダンスパフォーマンスが披露され、力強く明るい演技が多く見学者を楽しませてくれました。

見学後に提出してもらったアンケートでは、在学生のガイドによる図書館などの施設見学や進学に関するアドバイスを直接聞いて参考になったこと、学科紹介や体験講座を受けて本学進学への気持ちが強くなったとの嬉しいコメントも頂きました。

次年度以降も、より充実した企画で本学の魅力を伝えていきたいと思っています。



### 大学院9月入試実施

9月28日、大学院の9月入試が実施されました。選考の結果、地域文化研究科5名(一般2名、社会人1名、推薦2名)、地域産業研究科6名(一般1名、社会人4名、推薦1名)、法学研究科2名(社会人2名)の計13名が合格となりました。

2009年2月15日には、2月入学試験が実施されます。現在、入試要項及び大学院案内を大学院事務室にて配布しています。詳細については、098-893-8941 又は [offgrchr@okui.ac.jp](mailto:offgrchr@okui.ac.jp) へお問い合わせ下さい。

#### 大学院入試日程(2月試験)

出願期間:2009年1月19日(月)～1月29日(木)  
入学試験日:2009年2月15日(日)  
合格発表日:2009年2月26日(木)